

大崎地域を世界農業遺産へ vol.14

里地・里山の保全と大崎耕土の恵み⑩ 水田と屋敷林「居久根」、水路が織りなすモザイク的土地利用

大崎耕土では、やませなどによる冷害が発生しやすく、地形の勾配が緩やかなため濁水や洪水が頻発する地帯ながら、巧みな水管理によって、生計を維持するための水田農業が営まれてきました。



◀ 大崎耕土に広がる独特の景観

こうした人々の努力によって、水田、水田地帯に点在する屋敷林「居久根」や、張り巡らされた水路からなる、モザイク状の土地利用が広がっています。



▲ 大崎耕土の水田と居久根、水路が織りなす土地利用イメージ

巧みな水管理を背景としたこのモザイク状の土地利用は、地域の豊かな生物多様性の保全にも貢献していて、水田の害虫を捕食する天敵として米づくりに有益な、カエルやトンボなどの生きものに、生息環境を提供しています。

また、農家の暮らしと持続可能な水田農業を支える機能を有しながら、独特のランドスケープ(景観)を作り出しています。

次世代につなげていきたい、大崎地域の大切な宝です。



【問い合わせ先】産業政策課
世界農業遺産推進室
☎ 23-2281
sangyo@city.osakimiyagi.jp

7月1日現在の大崎市の人口 (単位:人・世帯)

地域	男	前月比	女	前月比	計	前月比	世帯数
古川	37,966	+ 25	39,606	- 3	77,572	+ 22	30,464
松山	3,060	- 8	3,222	- 6	6,282	- 14	2,193
三本木	4,015	- 8	4,066	- 6	8,081	- 14	2,681
鹿島台	5,872	- 10	6,278	+ 2	12,150	- 8	4,506
岩出山	5,546	- 6	5,844	- 9	11,390	- 15	4,249
鳴子温泉	3,075	- 5	3,440	- 2	6,515	- 7	2,820
田尻	5,613	- 1	5,784	+ 5	11,397	+ 4	3,594
市全体	65,147	- 13	68,240	- 19	133,387	- 32	50,507

☎ 市政情報課統計担当 ☎ 23-5091

今月の納税

納期限: 8月31日(水)

□ 軽自動車税	—
□ 固定資産税・都市計画税	—
☑ 市県民税	第2期
☑ 国民健康保険税	第4期
☑ 介護保険料	第4期
☑ 後期高齢者医療保険料	第2期
☑ 個人事業税	第1期

☎ 納税課収納担当 ☎ 23-5148

空間放射線量の測定結果

(単位: マイクロシーベルト/h)

	7月19日測定	地表面から1m	地表面から0.5m
市役所第2駐車場	0.05	0.05	0.05
松山総合支所	0.04	0.04	0.04
三本木総合支所	0.08	0.08	0.08
鹿島台総合支所	0.05	0.05	0.05
岩出山総合支所	0.05	0.05	0.05
鳴子総合支所	0.05	0.05	0.05
田尻総合支所	0.06	0.06	0.06

火災発生件数

(6月末日現在・右欄は前年比)

建物火災	24件	+ 9
林野火災	1件	+ 1
車両火災	3件	0
その他火災	14件	+ 7
合計	42件	+ 17

交通死亡事故件数

(7月15日現在・右欄は前年比)

発生件数	1件	- 1
死亡者数	1人	- 1

☎ 防災安全課 消防担当・交通安全担当・放射能対策室 ☎ 23-5144

8月号の主な内容

- ③ 大崎地域を世界農業遺産へ Vol.14 市長コラム 天地人
- ④ 笑顔ハジケル 大崎の夏祭り
- ⑥ 冷泉家時雨亭文庫 冷泉家と歌披露 世界で輝け! 大崎市ゆかりのアスリート
- ⑦ 第4期おおさき宝大使に52人を委嘱
- ⑧ 十年物語 ~おおさき人の軌跡~ フランク永井歌コンクール実行委員長 畑中敏亮 さん 株式会社 醸室 代表取締役社長 菊地大樹 さん
- ⑨ 大崎市が進める地方創生② 宮城おおさき移住支援センター
- ⑩ 市政トピックス 7月の主な出来事
- ⑪ 地域発! お・ら・ほ・の・ま・ち
- ⑫ オオサキプレイガイド
- ⑭ 新しいビジネスを始めませんか ほか
- ⑯ 今月のお知らせ
- ⑰ 子育て支援情報
- ⑱ 育児相談・乳幼児健診
- ⑳ 休日当番医 ほか

ピタ崎さんの観光ひとくちメモ

その2
みんなで、大崎市の魅力を発信していきましょう!

☎ 観光交流課 ☎ 23-7097

平成27年に、観光で大崎市を訪れてくれた皆さんは69.1万人で、県内ではなんと、仙台市に次いで第2位!でも、東日本大震災の前に比べると、1割ぐらい減少しているそうなんだ。宿泊客も、ここ10年間でもっとも多かった平成19年度の98万人と比べると、17万人ぐらいい減っているんだって。うーん、これは何とかしなければ...

まずは、大崎市を知ってもらおう「きつかけづくり」から始めるのがいいかもしれないね。観光客の皆さんは、ぼくたちが何気なく見ている風景や生活・文化に魅力を感じたり、地元の人たちとの出会いを楽しみにしている。だから、ぼくたちも地域の魅力をもう一度再確認して、訪れてくれた皆さんと積極的に交流しながら、大崎市の魅力を伝えていくことが大切になるんだ。

皆さんも、ぼくと一緒に大崎市を発信していきましょう!

今月の表紙

6月27日から30日、鳴子温泉地域の瀧沼で、鳴子中学校全生徒がSUP(サップ)を体験しました。SUPとは、スタンドアップパドルボード(Stand Up Paddleboard)の略称で、大きなサーフボードに立って乗り、パドルを漕いで進む、ハワイ発祥の新しいマリンスポーツです。はじめは膝立ちで、恐る恐る揺られていた生徒たちですが、慣れるとボードに立ち上がってスイスイと進み、緑豊かな瀧沼の自然の中で、地元の魅力をあらためて感じているようでした。

この取り組みは、アウトドア体験型プログラムを企画運営する「ナルコアーススポーツプロジェクト」が、鳴子温泉郷の魅力発信と充実した過ごし方の提案として、7月から始めたもので、紅葉が美しい秋まで、ノルディックウォーキングとの組み合わせで、楽しめそうです。

ナルコアーススポーツプロジェクト
<http://www.nes-p.com>



市長コラム

天地人

オリンピックを応援しよう!

4年に1度のスポーツの祭典、リオデジャネイロオリンピックが、8月5日から17日間にわたり開催されます。史上初の南米開催であり、2020年東京五輪の盛り上がりをおう意味でも、大いに注目されます。

日本選手が健闘し、表彰台に立つ姿は、東日本大震災や熊本地震の被災者に、勇気や希望、感動を与えていた、けるものと期待しております。

数ある種目の中でも、わたしは特に、女子バレーボールに感心があります。

古川・大崎は「バレーボールの地」と言われるほど、バレーボールが盛んです。

「古川・大崎を制する者は、県を制する」と言われるほど、非常にレベルが高く、少年・青年・ママさん・シニアともに、全国大会への出場や上位入賞を果たし、古川・大崎の名を全国に轟かせてきました。

そして今回の五輪では、火

の鳥NIPPON・全日本女子バレーボールチームのメンバーに、古川学園高出身の佐藤あり紗選手と、田代佳奈美選手が選ばれました。

古川学園高は、県内において11年間無敗の229連勝中で、全国大会出場107回、優勝12回、準優勝13回と、言わずと知れたバレーボールの名門です。実業団やVリーグの選手をもっとも輩出してきた同校から、五輪代表選手の選出は、意外なことに初めての慶事であり、市内のバレーボール界にとつては、古川工業高出身の蘇武幸志選手以来、32年ぶりの快挙です。

地球の裏側、遠いブラジルの地ではありますが、両選手活躍と金メダル獲得を願ひ、市民を挙げて応援してまいります!



大崎市長 伊藤 孝志